

分齋漫筆

			和
		一八二〇	書
	一〇二〇	函	門
六	冊	架	類

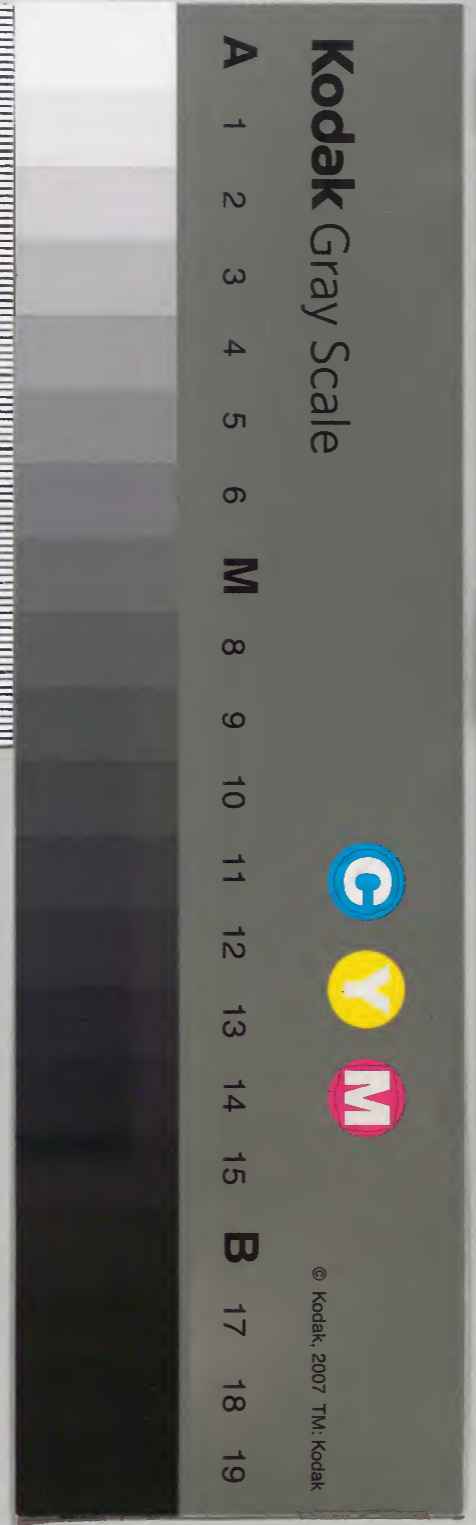
308

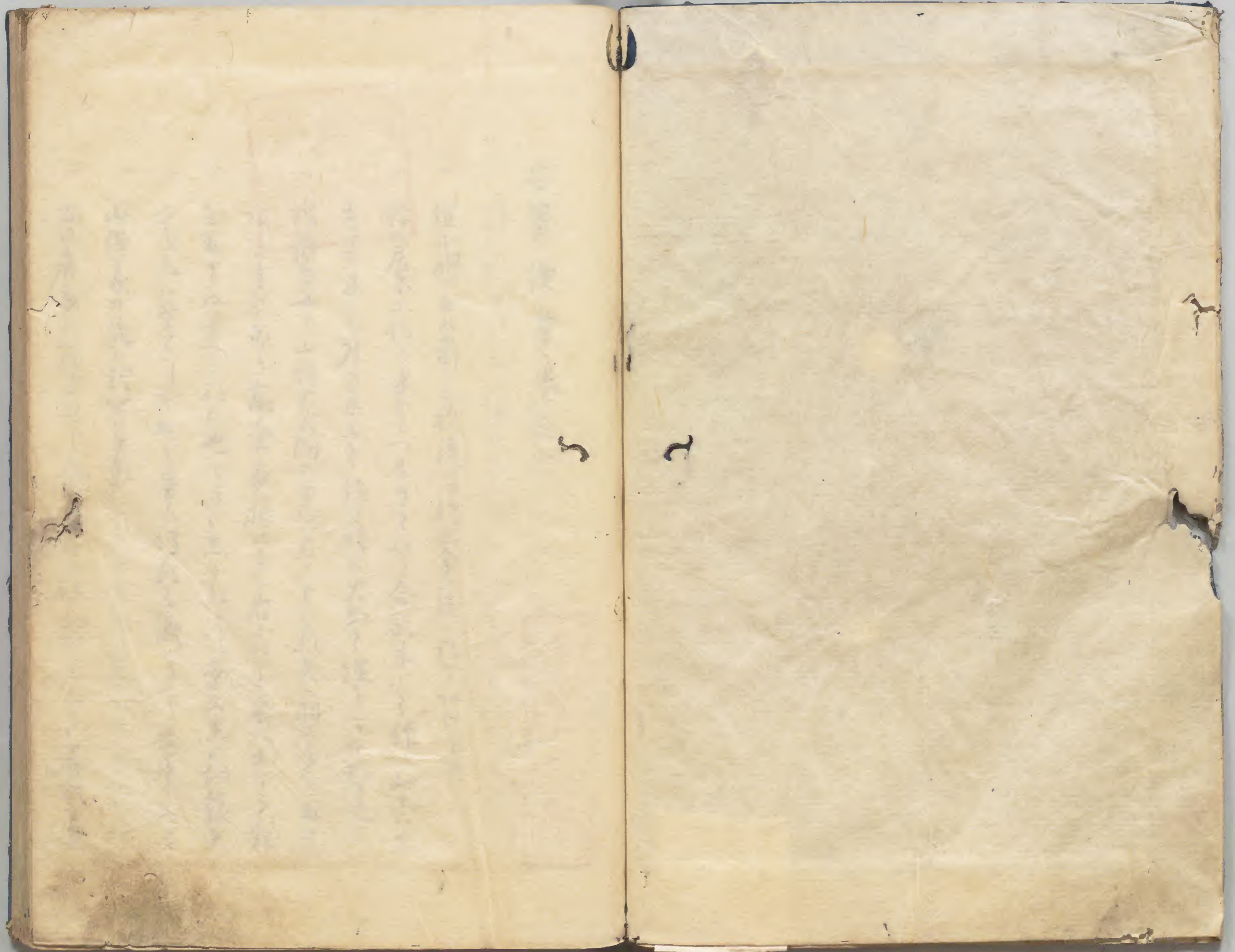
庫	文	閣	內
五	八		和
三	二		書
函	〇		
六	冊	架	類

隨筆 六四

內閣文庫	
番號	和 18820
冊數	6 (1)
函號	153 308

153-308





安齋漫筆卷之一

淺草文庫

一 鎧小胴ト云ハ前ハ二枚後ハ四枚也余の皮ハたてつけと云

一 鞍の居木小作木ハつ木ささり合歡木の作此木ハ火出るよし外の木は作る時ハ火出る繩と云切也

一 胡録負ヤ山科家ハ羽の方ヤ右小す此矢ハ羽の方ヤ取て板ト云ハ高倉家ハ根の方ヤ右小す前ハ出る根

一 堂上流の胡録矢を取てぬくハ此也と云志す此ハ堂上流の胡録矢を取てぬく事ハ行れし成る事ハ其中也

一 山科家の流ハ此也

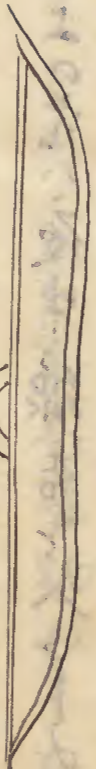
一 古の肩衣ハひふか今ハ右目の社人等ハ此ハ肩衣と云



す今の富の小路後... 有衣を用ひし事也

一 騙馬... 陰囊の玉をぬき... 荒馬... ぬきハ世馬の如く... 薩摩馬... 也

一 和堂... 武藏國和堂... 今ハキサイと稱ス... 又彼庄の... 和堂... 下川原... 五流... 一 彈丸... 射... 此草... 射也



此草... 射也

一 當時糸物... 色織部... 延喜式... 小用之 白石説

一 畳の縁、高麗縁、白地、小黒紋を織る也。畧、小黒、縹、緋、縁、赤地、小黒、黄の二筋、ふくむ物を織りし、厚き、の、ハ、此、二、色、也。

一 鉄炮の火蓋の鎖の中と、空ふす事、火の志と、又、八雨の時、覆をす、外、小、雨、中、の、仕、態、方、々、秘、事、あ、ら、ぬ、ふ、く、は、消、の、穴、火、繩、ハ、何、方、少、く、も、消、一、秘、事、あ、ら、ぬ、ふ、く、は、鉄、炮、ハ、油、と、ふ、く、は、ち、ぢ、ぬ、物、し、野、山、ハ、出、る、ふ、は、油、と、志、免、一、紙、と、入、置、一、き、る、と、又、甚、表、の、々、ハ、ハ、あ、ら、ぬ、ふ、く、は、紙、の、為、い、う、ふ、と、夫、夫、小、振、と、ら、ら、一、鉄、炮、の、リ、ン、の、上、の、穴、ハ、夜、中、線、番、と、入、ら、し、の、し、甚、ハ、莖、の、尻、と、入、^{ヒカリ}光

一天下三腰 正宗 義弘 吉光

一 ナ、ミ、モノ、是、ハ、先、来、変、物、少、く、變、名、ニ、シ、テ、ラ、ト、号、シ、鉄、を、一、寸、四、方、ツ、ミ、切、リ、身、内、ハ、一、ト、ウ、板、ニ、仕、立、タ、リ、變、固、ノ、キ、コ、ミ、ト、見、ヘ、タ、リ、今、テ、ミ、キ、ミ、具、足、是、也。

一 肖、割、具、足、桶、ノ、胴、小、ノ、背、少、く、合、せ、合、マ、リ、大、清、筒、ヲ、入、簾、サ、シ、小、窓、ス、ル、ニ、近、代、の、割、合、シ、も、之、の、上、ハ、火、繩、四、筋、分、テ、四、方、ハ、四、人、少、く、引、く、行、じ、古、ハ、小、窓、ノ、長、と、く、ミ、大、斗、リ、ミ、ス、サ、シ、の、持、馬、止、ふ、と、柄、一、し。

一 古、く、は、此、の、背、板、む、く、ハ、一、中、島、よ、り、背、板、ハ、あ、ら、ぬ、太、平、紀、時、代、ま、く、ハ、キ、マ、ニ、

一 總、角、の、尺、三、尺、八、寸、の、もの、也。

一 胴丸今の具足に通ふてつらむがし小さの毛門より
胴と引ひき丸とあり

一 杏葉ハ鳩尾の板せしとの板れ岩割し

一 障子の板ハ錦嚙の上あり鳩尾板ハちよの相引の上
けり千たんの板ハちよれお引の上あり

一 田地一及二百五十坪ハ一年二百六十日の民の食に豊原秀吉

一 坪と云ふ小定福葉受座五尺八寸小定むと京間を
つハ六尺とすあひのつ六尺田舎官五尺八寸と

一 覽官又兼官しと小きはらひのこし今よ袖を講釈の
時ハ是ふ入く出くおとあり甚ふしとむし奉幣

一 けしの時宣令ふ入事多かり

一 浅黄色ハ今よりさかき今よりさきハ二七藍しと貞丈と

ふさあひハあさきふりて今アサキとさきハハナダを

古ハとーしウスはモコキナカ

一 刀小櫃とかく事唐土より櫃のりやと血槽と武備志

ふりや血槽とまらちあひのよむ血と入るおの心し入

切し時血の櫃の中へ入る流るれハ刀小多く血は

うざらし血ふまはれ血はけりハ流る切きのは

こふふは事ありしとの用心の考也

一 八條流馬藤上杉彈正少輔藤原朝定四代後胤八条徳理

亮満朝馬の上よ此流と云世ふと家の八条後ふ馬の上

かハ此流と云ハ流の如し

ハリ余ヲセツ付ハ七九六ナラセツ余

一 細長トシハ将衣の仕立ヲテ長キモノトシ禁中ノ
童女ノ装束トシテトシテトシテトシ

一 馬ト引ルモノトシテトシテトシテトシ盛衰記ノ
大因信前キ友ノ説トシテトシテトシテトシ
口トシテトシテトシテトシテトシテトシ又
着ニ脱脱トシテトシテトシテトシテトシ
テトシテトシ何ク実アリヤ

一 宣ノ字ノ代リ日本ノ俗子字ト用フニハ子ハ火ノ
クシテトシ軍中ノ湯トシテトシテトシテトシ
是ニテトシノ如クテトシテトシテトシテトシ

カハリニ用ルトミ説アリ

一 馬ノ字ノ代リ日本ノ俗子字ト用フニハ子ハ火ノ
クシテトシ軍中ノ湯トシテトシテトシテトシ

一 山旭ハ省モ一キ色トシテトシテトシテトシ

一 見聞諸家紋帳ノ事書立雪舟トシテトシテトシ

一 科着此方トシテトシテトシテトシテトシ

一 永樂銭ノ事一貫文トシテトシテトシテトシ

其文と金と西と其付の相場は五錢三錢なり
南と多くあり唐の年代記と云ふ永樂の朝
東と重寶なりハ唐の年代記と云ふ永樂の朝
の代三十二年ふ南と云ふは年日奉應永十年
の此年八月二日唐の我朝へ来たは又同き年中
本より唐國へ出づ物と納は舟とふ永樂とつ
来りり、慶長十一年す、二百九年ふ、ぬ老人の
まね進年す、國東及び永樂にす、日、
とと、所とと、言要と争い、とと、止り、其に
東ハ、國の守護北条氏康作り、ハ、
永樂ふ、す、ハ、ハ、永樂一錢とす、

一 他、天文十九年高北と建、
ふ、永樂と用、此、他國、
ふ、
ハ、永樂ハ、
ふ、
ふ、
用、
ふ、
一 錢九十六文と百文、
との割と、

散り其前より居しさうふは小舟の中より物とし買ふ
きねが一俵六石五斗多し其より孫八代地代にきりたるよ
りゆゑある世にハ瀬ももりし長久の政にれハ代物九十
ニ文ふしし四文宛かけら後より一其上廿ニ文ツテさふ
そ又二十文と四ふ多れハ八文ふあるじかくていもひやし
りし九十文とゆき百文しし九十文と一貫しき
り是天文年中の比あり唐より此例あり九十文或ハ十文
或ハ五十七文ありしあり是と者隔しし明の揚升庵丹銘
地録ふる也

一 稻一束ノ事 今曰凡田長三十歩廣十二歩乃段十段為
町義解云謂段地稻五十束ニ稻春得米五斗也於町者須得五百束也 段

租稻二十二束 義解云謂田賦為租 勢別士人ニ稻一束とハ一把と十

ニ合せし一束とハ 十二把 一把とハ ハノ 一結つとハ 一 つと

と把とハ 九 一束ハ 二十六 つと也田一反して勢別の多しと十

束別とハ一代のり二代七坪一尺二寸三代十四坪二尺四

寸代二十一坪三尺五寸四代二十八坪四尺八寸五代二十六坪

一畝也六代四十三坪一尺二寸一畝七歩余七代五十坪二尺四

寸一畝十四歩余八代五十七坪二尺六寸一畝二十一歩余九

代六十四坪四尺八寸一畝廿八歩余十代七十二坪二畝あり

二十代百四十四坪四畝と二十代二百十六坪六畝也四十代

二百八十歩八畝也五十代三百六十坪一反也

一 馬のこころハ一背とてしし時竹葉三年味芳し

一 卍一五六十貫柄がー入墨焼ふーとけしーいゆり
妙也

一 徳平の太妙馬石を能く細末ーとけしー免酒ー
利通カミの妙神

一 金座由来 権現様神代文禄二年始々金銀の改訂
作付同四年江戸證河為所少々小判梅コメ金一任
小判をあるの目出直コメ何お定りい出小判コメ光次
判コメ書記コメと御新判コメ名付の慶長五年右墨
判コメ記りと極平コメ並コメ作付此節と分判
初々付まの江戸京佐後三所没所三小判コメ分判
と小判コメ並長年中コメ作付極平コメ並長金コメ福

此節金座の者コメ分一金の事コメ何お極り右と括り
分一金コメ事コメ御記

一 大判 後辰四所コメ同所三節ある大判コメ徳信長コメ
時コメ初光祖お極り

一 大仙判の事 四節コメ大佛判コメ大園コメ初光
祖徳宗お極り極平の相し徳宗作少コメ出座大佛
供養入用のと極平コメ大仙判コメの通用コメ
大判コメ八金コメ任能座

一 大判コメ拾兩コメ三階俵小判拾ありコメ八金座コメ黄金拾あり
出座コメ黄金一ありコメ俵むコメ八銀一枚コメ黄金三あり
俵銀十枚コメ黄金拾ありコメ大判コメ拾と銀四コメ三十目

の幸弭やけ末を川をりて列々免勝とて大
中とかさくくもか

一 歩をふくもろくぬ野中ふと少くまふふとまふふ
うくハ本とらふ先上流とけて物くしらの方よつさ
ましくもんちうくもく

一 釘と打ら木釘とぬきこふひ折残りくもま
とましくもまましくのゆと訂宜くもら一落せばあり
残りほ出るこ

一 けらりりや引くんとまの熊坂の視方りまらハ
枝葉に盛喜記入通院糸の糸に成親に謀致ハ幸枝葉
しとま

平家物語小篠原合戦の糸ふありとれものまハ日本一の
かこのまのくんとらりふれとま南あり貞丈持
くんとらりふれとま北くんとらりふれとま南あり貞丈持
日本一の劉の者も細く討ぶかものれとま何くも
くましくも古の俗語くも異語に積樂の相ふと
詞あり

一 ことんふましくも詞平家物語其外古言ふとあり貞丈持
六の字濁くも借非とことんけれとまハことんありとま
詞に伊くもありとま

- 一 禪家七堂ハ 佛殿 法堂 僧堂 庫裏 三門
- 西浄 浴室

一 真言七堂ハ 金堂 講堂 五重塔 大門

一 經藏トモ 中門 鐘樓

一 七堂伽藍 庫裏 西淨 惣堂 山門

一 八塔 仏殿 湯屋

一 唐様七堂 東方丈 四方丈 鐘樓 鼓樓

一 方塔 仏殿 山門

一 舌長沈しりのハ皆こまりのしくふるのしくの靴

一 皆の付ハ必舌長沈しりと云ふ所抄改出抄付く

一 太平記評判ハ那和宗と云ふもの家を傳へと云ふ

一 加賀國の法花は平しの傳へくは法承又大橋新し也

一 水神内通少宗熱右と傳へ大橋ハ奈河な波な家を傳へし

一 昔ハ世の室しセし言し今ハ板行ふ者あり人さのこまをた

一 老人雜話ハ江村専し名宗具し一人の漢と其子の

一 記したるは専し齋と業せ始か後に後と傳へ

一 後に後と傳へしは永祿八年光原院に没すの年にせし

一 寛文四年六月ハツ役行年百歳

一 食せたは飢さ法律掃のの如くふくもむこ等

一 外ふくはませ大梅の志とさな丸一朝出る時二三丸用ハ

一 一日の食のふかくしこか付を糲米と不苦しすは

一 三色金をとり

一 版と早くたくの竹の筒と水二所入らげん能く

一 筒ととりたくの竹の筒と水二所入らげん能く

いしく邪よの冬ふゆむむむむの歳暮としごけ七しち
 魂たまヲ祭まつリテ恩德おんとくヲ報むかヒナリ故ゆゑニ御魂みたまノ冬ふゆ
 ト云い可謂よ荷前祭也にがまえまつりなり
 一 饅まんじゅうヲカキトト事こと京都きょうと五條ごじょうの天神てんじんの社やしろ少彦すくひ彦
 名命なのみことと云い相あ相あ大己貴命おほのおのりぬみことと云い少彦すくひ彦名命なのみこと
 ハ神代かみよ小医こゐの道みちと云い病やまひを治なす禁厭かみえんの術わざと云い
 一 災わざと拂はらふまと云い神かみにまかかすま今いまもも神かみ
 籬さきふま木きをま供たまふま祭まつ者ものト云い木き饅まんじゅうと云い糸いと紡紡の人ひと祭まつ
 事こと例れいと云い其その饅まんじゅうと云い世俗じよこにまかかすま勝かちと云いカ
 子こと云い名なと云い木きハハ草くさ根ね
 小こ藥やく種しゆ用もち白木しろき也なり

一 上古じやうこハ筑紫ちくし九國くこくをまつま日向ひなたの國くにト云い
 一 馬うまニ咬かレタ瓦ゐ毛けノハ其そのアツキ夏火なつひニテ燒や
 一 カ如ごとシ甚たイキレ苦くるシム物也ものなり是こゝヲ治なスニハ
 一 枳しノ角かくニヨリ氷こヲ吞のムム一ひとト忽たち熱あつ忒たテ
 一 痛いたム輕かクナルなり心こゝろ扱あススベリ莫なクツツキククバラ
 一 カかニ煎いシ吞のムム疝はニハ栗くり子こヲカかニククタタキ
 一 付つテヨよシシ
 一 甲かノ緒いと其その外軍げいぐん中ちゆう着ちやく具ぐノ緒いとノ緒いとアアママリハ組ぐみ
 一 留とどメオクニカタワナニ結むすテ緒いとノ端はしノ方かたヲ
 一 ワナわなハ入いレレワナわなヲ一ひとツツ子こシシリリテ又またハシシヲ
 一 ワナわなハ入いレレ又またワナわなヲ子こシシリリ端はしヲ入いレレ如ごとク

スレハ三ツ折ノ如クナルソラホトケスル

丁十ニ行騰ノ緒弓小字十トノ緒モ同

一 皺文 ヒキハク 訓比哉波多言蝦蟇皮膚也

一 鎧 ヨロイ 訓日本紀齊明紀縮旗二具 フタヨロイ 源氏物語

ハ 物ノ 伊厨子ニ 下リ 以テ 棠花物ヲ 語ル 小シ 法ノ 口ト 一ト 下リ

以具足ス 之ノ 謂シ

一 瓦舍 カサ 聖武紀曰其板屋葺舍宇古遺劔難營

易破 ツク 彈民財諸仰有司構立瓦舍塗為赤白

一 石垣 幕 見齊明紀 累石為垣 緝幕

一 暗号 アヘエト 天武紀 見ユ

一 年忌月忌 日本紀持統二年二月每取国忌

日要須齋也或曰天武国忌為九月九日而今

二月有此勅則取每月九日為国忌歟世所謂

月忌盖出于此也今按或說謬矣此指九月九

日為国忌日但因此日有勅以記之耳所謂年

忌月忌固非古也唯十二年忌出于国俗見元

亨親書然未詳其始東見記曰櫻町中納言欲

修少納言信西十二年忌其弟高野僧明遍不

從仙者四十九日而止後世倣儒者祭法始有

年忌之說相国寺僧瑞溪考一切經曰經中無

年忌服紀之事盖假儒而用之也垂加翁曰君

又師死日每月素食明文無之盖国俗也新後

又師死日每月素食明文無之盖国俗也新後

拾遺集有三十三回忌續日本紀曰此日當太
 上天皇七々又曰設太上天皇百七千齊諸守三
 代實錄四十九日訓波立乃比大藏一覽曰中
 有極多也七々四十九日定結生五雜俎曰死
 每七日則備一祭謂之過七至四十九日而止
 一本朝民部省ニアリシ諸國圖帳安元元年內
 裏冬上ノ時燒失スト永正四年十二月ニ記
 シタリ旅宿問答ニ有リ
 一朗詠集注ハ匡房卿ノ作ト同昼ニアリ
 一古書ハ漆ぬの墨ハ平文と云ふものありハ金泥と云ふ所
 あり給ふ給ふと云ふことありと云ふ事あり

一殿法印良忠太平記ニ見ユ或人ニ聞白ノ子
 ヲ殿ノ中將殿ノ法印ト云ヒト又
 一せまの源氏玉かのる由軟障と書く事あり
 一字下日本紀孝徳紀大伴長徳字馬飼連トアリ
 本朝ノ人字ト云フベカラス
 一檢使知ベキ事切疵ノ見分ハ死後ノ切腹
 ハ太刀疵肉ニニクレ入シカモ骨肉ハ十シ
 肉乾クナリ生キタル時ノ切腹ハ疵外ニキ
 肉トハナレズ肉ノ中ウレホヒアリ
 燒死タルヲ見分ルハ生タル人ノ燒死タルハ

鼻ノ内フスボリ黒シ^死焼タル人ヲ焼タルハ
鼻ノ内黒カラス○首縊ノ見分ルハ生タル
人ノ首縊リタルハ繩ノ跡血ヨリテアサア
リ死タル人ヲクヒリテカケタルハ繩ノア
ト血ヨラスアサナシ○首ノ見分生タル人
ヲ切タル首ハ切口皮外ハセテ午、ム死
タル人ノ首ヲ切タルハ切口ハセズ前ニ記
シタル切腹人ノ疵ト同ニ理シ鼻ヲソキタ
ルヲ見分ルハ軍中ニテ鼻ヲソクニハ下唇
ヲ付テソク法シ唇ニ髭アルハ男ノ鼻ニ髭
ナキハ女ノ鼻ニ又死タル人ノ鼻ヲソキタ

ルハ切口外ハハセズ前ニ云如シ○男ハ物
ヲ按スル儀アツク女ハウツムク陰陽自
然也

一遁世者ノ何阿弥ト名ヲ付ル黒谷上人傳
ニ云大仏ノ上人俊兼坊一ノ意樂ヲオコシ
自ラ南無阿弥陀仏ト号カラル是ハシメシ
一母衣ハ前ヘカフリテ城中ヨリ射出ス夫ヲ
防クニ塙囊抄ニ武士臨戰場被親防敵矢ヲ
遠江国萱場村ノ民利右エ門其先祖ハ武士
ニ其弟森田庄七予カ家僕タリ庄七語云兄
ノ家ニ昔ヨリ傳ハリシ古キ屏風有リ大ニ

損シキしくトナリ其中ニ母衣カケタル武
者ノ画アリ其テハ鏡ノ形今ノ鏡ニ似スシテ
檜杓ノ如クナルニ足ヲフミ入レタルナリ
ムナカヒニモフサハナシ形少シ細長クシテ
其廻リハツレ雪ノ紋ノ如クキガミノアリ
母衣ノ色ハ白シ其母衣カケタルテハ後ヨ
リ前ノ方ヘ引カブリテ武者ノ頭ハニエズ
馬ノ頭ノ後邊迄カ、リテ兩端ハ兩方ヘ夕
レタリ隅ニ扇形ニ青赤黒ノ糸ニテ三重ニ
刺シタル針ノ目ノ如クナル彩色アリ兩ノ
隅ニ總モアリニト予コレヲ聞テ其檜杓ノ

如クナルハ鐘ハ壺鏡ナルヘシムナカヒニ
付タルモノハ杏葉ナルニ母衣ヲ前ヘカ
フリタルハ矢ヲ防ク形ナルヘシ其画ハ古
代ノ物ナルヲ疑ナシ

一 閏六月ノ時ハ氷無月候ヲハ閏六月ノ晦日
ニスルヲシ家持家ノ集ニ見ユ

読人不知

一 七夕の天の川糸ハセリ後ノ晦日御衣ヲ
一 イレテコノ草トキハイニテアノ訛ナリイ
ニテアハ西天竺也ムスコベキハモスコヒ
ヤノ訛也モ、ヒキキヤハニトニ付ルホ

タレハ阿蘭陀人ノ装束ヨリ出タルモノノ
雨衣ニ上古ハ貴賤トモニ蓑ヲ著タリ近世
ニ至リテカツハト云物ヲ著スカツハト云
物ノ本ハ今世ハウズカツハト云物其始
袖ナキ物シカツハモ阿蘭陀人ノ衣服ヨリ
出

一毒消ノ藥ニ用ルウニコウルト云物本名ハ
ウニコル也ガルウニラアト云國ニアル獸
ノ角シウニハ一ナリコルハ角ナリ真ノウ
ニコルハ色少黄ミアリ打破リタル形堅ニ
竹ヲ割タル如ク節見コルフリ色白クシテ

割ク目竹ヲワリタルキメノ如クナラサル
ハ白犀角ナリウレコルニ非ス
一ミイラト云藥ハアラビヤト云國ヨリ出ル
ナリ

一布帛ノサレトメハサレトメト云國ヨリ出
キヤウハテヤウルト云國ヨリ出兩國トモ
ニ天竺國ノ内也

一布帛ニ筋ヲ織タルヲ古代ハズレト云ナリ
近代ハ是ヲシト云ハ嶋ノ字ニテ外國ヨ
リ渡リ来ル者サレトメノ類皆筋ヲ織タ
ル物ク嶋ト云ハ日本ノ地外ノ國ヲ指ス詞

ナリ

一屠兒エトリ牛馬ノ肉ヲ食クシテ膏ノ餌エハシトシテ

むクシテハ膏ノ餌エハシトシテハ名ナヲシルコト

一 志シトシタリトシテハ五音相通シタルコトトシテ

こトトシタリトシテハ五音相通シタルコトトシテ

隨シテハ禰多ニノ字トシテハ本ノ字屠兒トシテ

一 閻浮檀金エニブレンゴン宣徳代ノ作ル黄唐金ノ類ニ小仏千辨

作ル黄唐金ノ類ニ小仏千辨トシテ

一 宣徳ノ黄金ノ代ノ物トシテ

一 ヒトヒトナリアリワレ日本紀崇神紀ノ童謡ニヒ

ナリアリワレ日本紀崇神紀ノ童謡ニヒト

メノアリビノ畧也ノアリノ切音ナ也トヒハ

ヒメノ轉語ナリ

一 たつらとらとらと和音ノあり手束ヲらとらととらとらとら

ふふにぎららららとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

事ハ美ノ牙ヲふク也トシテハノふク杖トシテ

一 今疫病除ノ守トシテ漸ノ字ト門ノ下ニ貼ル漢ノ旧ノ儀曰

雛而立テ滄耳注即漸耳也

一 中山傳信録ニ舜天王ノ莫ヲ記スル内ニ宗

淳熙十四年丁未也ノ文アリ按ニ此丁未ハ

日本文治三年也嘉應二年庚寅為朝追討ヲ

サツテ十八年也然テハ舜天王ハ伊豆ノ大

嶋ニテ出生ノ人也

一帳チヤウ臺ダイ塗籠スリゴ眠藏ネソウユノニツハ一ツ座敷

ノ名也帳臺ハ常ノ主人ノ居間也客殿客殿ノ裏也

ノ方へ出ル口ニ帳ヲ垂ル故張臺ト云ナリ

帳トハ幕又ノウレシノ如シ神仏ノ前ノミトナラフノ如シ外座鋪ヨリモ一尺斗

高ク作ル故臺ノ字ヲ付ル也此所ニ色ニノ

手道具ヲ納メ置之下ニニテ寐間ト云ニ同

此所ニ主人寢ユへ眠藏トモ云寐ル所ナリ

故ニ用心ノ為ニクナク多ク明ケズ對面所

へ出ル所ノ口ト勝手へ行ク口ト二方斗リ

アケテ其外ハ壁ニテ塗フサガ故塗籠トモ

和

号

云ナリ

一或書ニ寺方ヨリノ進物ニ久喜一桶ト云ナリ

アリ久喜ハカ十字也本字ハ鼓ノ字也和名

抄ニ鼓和名久木ト見タリ今ノ世ニ豆ヲ煮

テム口ニ入レテ子カヒタルヌナツトウト

云是ナリ

一葎藤ノ蔓東西洋考ニ葎藤蔓抽被地無枝

葉有皮衰其外如竹皮剥之則落長數丈不値剪

伐可繞數圍今弓ニ卷藤ハ則此葎藤也古書

ニ真棒ヲ卷トアルハ藤ヲ卷衰ニ藤ノ字竹

カムリニ書ハ右ノ葎藤ノ事也藤ハ字彙曰

蔓生似竹ト右蒨藤ハ細キ竹ニ似テ枝葉モ
ナリ蔓^{ビユ}リ生スル也サレバ三所藤重藤ナト
ハ藤字ハ藤ノ字ヲ用ヅル
一 案ノ字ハ洪武正韻彙篇ニ考驗ナリト注
リカシカウルトヨム也公儀ノ書留ヒカ
ハ後日ニ事ヲ考ベキ為ニ書留テクモノ
ナルユハ案ト云ナリ此案ハ新キ事ノ出来
タル時ノ道引トナルモノ也依之世俗ノ詞
ニ人ノ道引ヲ頼ムト案内ヲ請ト云也人
ノ手引スル者ヲ案内者ト云モ其意也人ノ
方ハ事ヲ告ケ知ラスルヲモ案内スルト云

是モ人ヲ道引心也又人ノ家へ行ク戸ノ外
チモノニウ物ニウサウト云事也ト云莫ヲ
案内ヲ請フト云也是モ其内ヨリ家人出テ
家ノ内ヘ道引入ルハ故案内ヲ請トハ云也
皆カノ公儀ノ書留ヨリ義ヲ轉シテ云習ハ
シク此詞也
一 尾籠ノ二字訓ヲコト讀也嗚呼ノ音ト同シ
人ニホコリカマシキコトヲオコノ者ト云ホ
コリカマシキ莫ヲオコカマシキト云也無
禮ノ事ヲ尾籠ト云ハ心得違也然レトモホ
コル者ハ礼儀ヲモ知ラス者ユハ其意通ズ

一 此傳作者洛東隱士雲廉謙信景勝二世ノ事

雜言ヲ記

川中島合戦ハ五ヶ度也是ヲ世ニ一ヶ度ニ

混雜シテ沙汰ス又云上杉家ニ車返ト云行

ハノク様ニモテナシ先ヨリクルリト引ニ

ハス也貞丈按ニコノ車返ニヲ覺違テ甲陽

軍鑑ニ車カ、リト云

一 或書云軍中ニテ弓射ルニ敵四五間ホトニ

テ夫ヲ放ツヘシ弱弓ニテモ鎧ヲ通サザル

ヲサシ強弓ニテモ二十間三十間遠クテハ

鎧ヲ通シカクニ三十三間堂ノ通ニ矢十ド

ハ用ニタ、不替古也大的三十三杖ニテ射

ルハ礼射也鎧ヲ貫クヲ習フハ貫草ノ射也

三十三間堂ノ通ニ矢ハ名利ヲ釣ル為ニノ

射法ノヲトロヘタルナリ

一 伊達風流の事法家源秘源云寛永三年 台徳ニ御

上洛ニ帝 伊達政宗行粧兵と云一其紅の糸を以テその

帯を引く後者すく英くくくテ法人ヲ習う一在ニ以

風流の人を思々伊達者ト云いふハナリ

一 慶安ト云夏江戸本挽町小大和慶安ト云醫あり又曰町小

伊達ニ言ニ傍長谷川 助右ト云浪人々の慶安ト云魂ト

人々の出入或所信公夏沙法男女の媒始ホ三人トテ肝入

酒井与九郎息長門と忠貞と祿一石と傾一浅州
多敷の屋敷ふ有り慶安長門の息女と武方へ縁造
但金五六千両息女持家の筆に於定彼二人お供ふ二
千両ツと分りあり後仕と知此より世上一少一終ふ
と後少仕ふり寛文五年八月廿四日右縁家双方追
放あり彼二人も追放あり其後より謀斗と
あに人といへんと多しは是は法家御秘録にあり
一 喪服ニ五等アリ斬衰大切小切總麻也コレヲ
五服ト云斬衰ハ三年齊衰ハ二年大切ハ九ヶ
月小切ハ五ヶ月總麻ハ三ヶ月也三年ハ再
期也死タル月ヨリ廿五ヶ月十リ期トハ十

二ヶ月也一周スルヲ期ト云二年トイハ片
實ハ二年也衣衰ヲ期ニ衰ト云死タル月ヨ
リ十二ヶ月一周ニシテ明年ノ其月ニテヲ云
實ハ十三ヶ月也齊衰ノ杖ツクト杖ツカサ
ルト五月ト三月ト凡テ四等アリ杖ツクヲ
杖期ト云杖ツカサルヲ不杖期ト云杖ヲツ
クハ重ク杖ツカサルハ輕ニ五月三月ハ又
不杖期ヨリモ輕ニ服ハ衣服ナリキモノ也
喪ニハ常ノ衣服冠履ヲ脱テ五等ツレノ
服ヲキル故コレヲ服ト云服ヲ制其差五等
アリ五服皆麻布ニテ作ル麻布ニ廉細アリ

八十縷ヲ一升トス升ヲハ此方ノ紅女ノ詞
ニヨミト云フ是也斬衰ニハ三升ノ布ヲ用
弁衰ニハ四升五升六升大切ニハ七升八升
九升小切ニハ十升十一升十二升總麻ニハ
十五升ヲ用テ其半ヲ去ル斬ハ裁割ノ義也
裁割ニノ緯セサル也緯ハハシヌイ也夕干
ノヲニツフ也是ヲ斬ト云ハ痛ミ甚シキト
云美ヲ取レル也衰ハ摧也クタクル也孝子
ノ心摧裂スル丁ヲ表スル也上ヲ衰ト云フ
衰ハ衣也下ヲ裳ト云衣裳ニ十極テ簾キ生
麻布ヲ用ユ衣ノ両旁下際ニ十緝セズ皆ニ

負版アリ布ノ方八寸ニ裁テ領ノ下ニ綴ル
悲衰ヲ負荷スルト云美也前ニ喪アリ布ヲ
長サ六寸廣サ四寸ニ裁テ當心ノ処ニ綴ル
孝子衰推ノ心アル丁ヲ明ス也首ニ冠アリ
首經アリ首經ハ麻ノ鉢ニキ也腰ニ腰經有
絞帶アリ腰經ハ麻ノコンニキ也絞帶ハヲ
ヒ也足ニ履アリ父ノ為ニハ苴杖トテ竹ノ
杖ヲツク苴ハ蒸黑色也紫竹ノ類也母ノ為
ニハ桐ノ杖也弁衰ハ次ニ簾キ生麻布ヲ用
ノ弁ハ緝也衣ヲ両方ノ下際ヲ緝スル故ニ
弁衰ト云餘ハ斬衰ニ同ニ冠履經帶ハ弁衰

以下名異也大功ハ稍廉キ生布ヲ用テ小功
ハ稍細キ麻布ヲ用ノ今北方ノ俗ニ細工ト
云意也布ノ細工廉大ナル故ニ大功ト云
布ノ細工細小ナルコトニ小切ト云服制ハ
齊衰ト同シ大功以下ハ負版ト云細麻ハ極
テ細キ熟布ヲ用テ練タル布也總ハ糸ト同
シ細キ事絲ノ如ナルヲ以テ總麻ト云服制
ハ齊重ト同シ又婦人ノ喪服ハ男子ト異也
クハシクハ父ノ家禮齊家室要ノ示書ニアリ
表ニ正服アリ冕服アリ降服アリ正服ト云
ハ骨肉ノ分アリ親戚ノ屬^{ツキ}アリ患愛ノ情アリ

リテコレカ為ニ服スルヲ正服ト云父母ハ
云ノニ及ハズ伯父叔父兄弟ノ為ニ服衰期
年スルカ如キ是正服也義服ト云ハ骨肉ノ
分ニナク親戚ノ屬モナクレ思愛情アリ
ニヨリテ義ヲ以テ服スル也伯母叔母ノ為
齊衰期年ニ兄弟ノ妻ノ為ニ小功ヲ服スル
カ如キ是也又婦人夫ノ為ニ服ニ夫ノ父母
諸親ノ為ニ服スルカ如キ皆是義服也加服
ハ加ヘテ重クスル也嫡孫袒父母ノ為ニ重
キヲ兼レハ斬衰ヲ服スルカ如キ是也重キ
ヲ兼ルトハ嫡子其父ニ先立テ死ニ嫡孫其

祖父継嗣トナルヲ兼重ト云降服トハ降ニ
 テ輕クスルナリ凡テ男子ノ人ノ後トナリ
 テ其本生ノ親族ノ為ニ服ニ女子出嫁ニテ
 其私親ノ為ニ服スルニ皆一等ヲ降ス也私
 親トハ本宗ノ親族ヲ云此方ノ里方ノ親類
 ト云物也一等ヲ降ストハ正服斬衰ナレハ
 降服齊衰不杖期之正服齊衰不杖期ナレハ
 降服大功ニ大功ハ小功ニ降ニ小功ハ緦麻
 ニ降ニ緦麻ハ無服ニ降ス

一 親死ニテ十三月ヲ小祥ト云一周忌也二十
 五月ヲ大祥ト云三年忌也

一 忌日 礼記ノ祭儀ニ君子有終身之憂忌日
 之謂也 注忌日親亡之日也

一 成語考曰百日之内曰注血百日外曰替親

一 親門正統曰若百日与大小祥之類皆託儒礼
 修出世之法耳出世ノ法トハ世俗ノ法ヲ云
 出家ノ捨世去ルユハ世事ニ拘ルヲ出世ト
 云ナリ

一 死ノ翌日ヲ小欵ト云三日ヲ大欵ト云葬ル
 迄ノ間ヲ殯ト云人ノ表ノ中ヲ制中ト云制
 生ハ表アル人ノ自称也

一 古代サカツキハ土器ヲ用タリヌリ盃ハ古

田織部作也小原盃ハ小盃權兵衛ト云モノ
元禄ノ比作り出ス
一天台宗ニテ大藏卿右中將大納言十ト新登
意ヲ云ハ昔ハ大納言十レハ其子ノ新登意
ヲ大納言ト云コレヲ君名ト云
一古代ハ錢斗リ通用ニテ大判小判壹分判十
トノ金通用ハ慶長以來ノ事也
一木村彌十郎高敦作續武家閑談云狭箱ハ寛
永ノ末ニ江戸ニテ出来ス其前ハ狭作ト云
物ヲ用ユ是サハ慶長ノ比津田長門守始テ
製ス葛籠モ稀ニノ當番ノ諸士夜具ヲ木綿

袋ニ入是ヲ番袋ト名付モ夕セツカハス貞
犬ハ狭竹トハ丸竹ヲワリカケテ割リノハ
衣服ヲ狭ニ先ヲ縮ニテ結テ供ノ者ニ持セ
シト也雨露ニスレ土ホコリナトカ、リア
シキ故後ニハ狭箱ヲ作り出シタリハサミ
竹ノカワリニシタル故ハサミ箱ト云ハサ
ミ竹ヲ用ヒザル以前ハ衣服ヲ袋ニ入テ持
セシ也是ヲ上^ウザシ袋ト云今モ田舎十トニ
ハ袋ヲ用ル也止^トハ袋ノツヨミノ為
ニ少フサキ糸ニテ豎横十文字ニ袋ヲ刺ス
碁盤ノ目ノ如クサスユハ上サシ袋ト云永

禄ノ比ニテ上サシ袋ヲ用ニ其後ハ狹竹ヲ
 用ニ其後ハ公サミ箱ヲ用ニ
 一支配 胡三省通鑑注支ハ分也配ハ隸也
 一紅花染ノ絹ヲモミト云事モハモミ子ノ
 色ニ似タル故ナルベシ後撰集秋ノ下ノ鳴
 テ寒キアシタノ露ナラシ立田ノ山ヲモミ
 出スモノハモミ出スハ色ヲモミ出スナリ
 古今集ノ哥ニモモミツルトヨメル哥モミ
 ツルモモミ出ルナリモミ出ルヲ畧シテモ
 ミツルト云モミツルヲ畧ノモミツ也ツト
 子ト音通スル故モミ子ト云也紅絹ハモミ

一 手色ト云ヲ新畧ノ登和ト云ナルハ
 一 和歌物語 桂秋春川人記 短冊ハ濃墨ニテフトク
 書カ古実也禁中院中ノ御會夜ニテ灯火ノ
 モトニテヲモミ上ル物也叔短冊ハ少シ左ハ
 ヲセテ書也其故ハ一枚紙ヲ切テ短冊トシ
 人々ト渡シ哥ヲ書ク也後ツキテ卷物トス
 ルナリ其ツキ代ホト左ノ方ヲアケテ置故
 也後世ハ是類ツカズ重テテ紙ノ本云ハ紙
 ツクト云心ヲ並夫ニソクカサレヤウニ心
 人ハ今モ左ハヨセテ書也芝山重豊卿語
 玉ヒニナリ

一同書 園大納言基香ノ仰ラレシハ懐命認
ル事下ノ揃ハサル様ニ認正物也凶事ノ懐
紙ハ下ヲ揃ル也又ヘテ文ヲトテ認ルモ下
ヲ揃テ書ハ賤ニ申ワザ也又梅花春風秋霜
菊花十上ノ熟字也のノ字入レテ書ヘカラ
ズ又上ノ句文字ニテ昼刻下ノ句ノ頭ハカ
十タルベシ下ノ頭文字タラハ止テ頭ハカ
十タルヘシ上下十玉ニカ計ニテ昼ハ苦ニ
カラズ上下トモ書出シテ莫ニテ昼ハ心得
タル入ノセノ夏ノ由水無瀬氏孝卿ノ仰也
一基香卿ノ云懐命ヲ昼時詠キハメテ莫ニハ

カハヌ物也行草ノ間タルバシ追悼ノ懐紙
ヨリ外莫ニテ書サルモノ也
一又云歌袋ニテノク紙ニテモミラユルカ本
法也徒ニ十クヤ蛙ノ哥袋心十キヲモ思ヒ
入ハヤコノ古歌ヲ裏ニ書モノ也水引ニテ
ク、リ桂ニカケヲキ思ヒ付ケタル哥ノ趣
向ヲ入置袋也昔ハ錦十トニテモ製セシニ
ヤ江記ト云モノニ 匡房卿ノ歌袋大和錦ニ
テ製セラレシ由見ヘタリ當時公家衆イツ
レモ大鷹紙ニテ製セラレ
柴折ノ丁 柴ノ戸ノ跡ニユハカリシホリ

セヨワスレヌ人ノカリニコソトハ正治二
年ノ百首定家卿ノ哥也モシ僧ナラハシヲ
リシテナラヒニケリ十里人ノ歸ル山路ソ
跡ノ月影夫木ニ如顯法師トアリ是ハシハ
オリノ畧ニテ山ハ入ル者モトノ道ハ飯ル
時ノ心覺ノ為所ニ柴ヲ折カケテヲク夫
ニナソテハテ作ル也枝折ト書ハ誤也ト基
香卿ノ仰也

一短冊ト云フ頼阿以後ノ物也ト云説アレ
古来叙位除目ノ時短冊申文ト云フアリ紙
ヲ細ク夕午テ官位ヲ願フヲ書付ル也御

堂関白殿短尺申文ノ多ク有ケルヲ裏カハ
シテ哥カセ玉ヒシト云フ清少納言ノ日
記ニシユ

一和哥墨ツキノ事物ノ名ニテ切ラス熟字ニ
テ切ラス腰ニテ切ラストサハ覺ユレハヨ
シコレハ後水尾院秘シテ傳ヘ玉フト芝山
大納言宣豊卿ノ書玉ヒシ物ニ見ユ
一懐帛ト云モノハ大昔ハ十カリニ物也清和
帝ノ比歌帛ト云モノニク紙ヲ用ユ
ト云フ貞信公ノ記ニ見ユト卯祭ノ双紙ニ
引タリ貞信公ハ延喜前後ノ人也清和帝ハ

夫ヨリ前也聞傳ヘテ書セ玉フカ卯祭ノ双
紙ト云フハ一卷アリテ作者知レズトイヘ
氏清少納言ノ枕双帟ニモ双紙ハ卯祭殿ウ
ワリトアリ今ヤウノ物ニ非ズ殿ウツリト
アルハ今乞食ノウタフ鳥追ト云物ノ詞ノ
餘風也御堂殿新殿ヲツクラセ玉フヲ祝シ
タルウタヒ物ナリ

一江源武鑑ハ偽書也近江坂本雄琴村ノ民沃
田喜太郎ト云者昔蓮院法親王ニ奉仕シテ
禿童トナリ学文ニ後ニ銀ノ茶碗ヲ盗ミウ
ル丁頭レテ追出サレ旧里ニ歸リ己レ佐々

木ノ嫡流也ト偽テ佐々木ノ系圖ニ加筆ノ
己カ先祖ヲコレテ且佐々木ノ日記ト偽
テ江源武鑑ヲ作り刊行ス又大系圖モ彼カ
作ニテ偽多シ又和論語足利治乱記浅井日
記異本関原軍記異本勢州軍記等モ彼カ作
ニテ虚説也佐々木義實義秀義卿ハ彼カ作
リタル人名ニテ彼カ先祖也ト云其名ハ有
テ其人ノ跡ハナキモノ也彼ノ虚説ヲ用ヒ
タル書ハ国家治乱記異本雜波戦記三河後
風土記武家高名記和州諸將軍記浅井始末
記同三代記東国太平記日本將軍傳諸家興

七記 武家盛衰記東海道駅路鈴木也

一 主久又との哥ハ玉清島明神の由奇よあ〜に後人の
仍作也其友ハ玉清島明神ハ衣通姫也衣通姫ハ元恭
天皇の妃にけせといひ又〜多〜乙〜と云詞有りけ世
と云ハ仏者の現世と云詞にあ〜と云ハ仏者の垂跡に
現世来世本地垂迹ふ〜と云ハ皆仏家より出〜詞あり
元恭天皇ハ人皇二十代より仏法ハ三十一代敏達天皇の附
靈に於て〜後代に流〜事ハ佛法ハ衣通姫ハ知
玉清島に〜

一 入眼 古書ニアル詞也下学集云日本世俗
成就ノ美し貞犬按コレ画工ヨリ出タル詞

軟人像ヲ画クニ初ハ眼精ヲ点セズ画成就
ノ後ニ眼中ニ墨ヲ点ニテ暗ヲ画ク凡生活
ノ初ヲ画ク皆如此スルヲ画家ノ法トス是
ヨリ轉ニテ物ノ成就ニタルヲ入眼ト云
ナルバシ

一 十ベトリ 冠ニ付ル才イカケ也其形カマ
トニカケタル鍋釜ヲ取揚ルニワラニテ組
タル物ヲ両手ニ持テソレヲ鍋釜ノ端ニ当
取揚ル也才イカケ夫ニ似タル物ナレハ旧
舎人ノ詞ニ冠ノ才イカケノヲ十ベトリ
ト云唇言字考ニ緋カケ字注冠具俚俗謂之鍋

取トアリ緋ハ鳥ノ尾ニテ作ル物也
一ナルベシニ帯オミ扇十トイハル俗
語ハ子カナヲミトオニト云々也陰陽師ヲ
たさくしヨム也ハ子ヒノキミニカヨフ
也貞犬按オレ十ハシヲミ十ハシト云
一ナルベシニ花押ハ名ヲ州書ニカキタル
也花押ノ上ニハ姓ヲ書事ナルヲ今世誤テ
名ヲ書也庭訓十ト見ルベシ今世奉行ノ輩
面ニ私印ヲ用ユ官印ナキユハ也古ハ官
印一官府ニツナラテ十ニ是ヲ日月ノ下ニ
押テ面々ノ花押也官ノ文書ハ皆物書役ノ

書ク事ニテ名乗斗リヲ面ニ州ニテ後ニ書
ク花押ト云也
一同書ニ夫ふ云矢の笈ナルヘシ上総ニあり
ひと云所有則新笈ト書リ
一ニ字ヲ奉ルト云々古今著聞ニ刑部丞美
先カ六條修理太夫顯季ニ二字ヲ書テ奉リ
シトアリ又十訓抄ニ民部卿文範カ餘慶僧
正ニ二字ヲ書テ奉シト有レモ相論十ト
ノ後ニ人ニ服後ノ其人ニ後ヲ時ニハ吾カ
名乗ヲ書テ奉ルト云後三年物語ニ家衡
カ乳母千住ト云者ヤグラノ上ニ立テ声ヲ

放テ將軍ニ云フ様ナシジカ父頼義貞任宗
任ヲ討エスシテ名簿ヲサシテ故清將軍
ヲカタラヒ奉リヒトハニ其カニテ夕タニ
貞任ヲ討エ夕リト云ク其名簿ト云ハ名衆ヲ
書テ奉リ其幕下ニ候スルヲ云是又ニ字ヲ
奉ル事也

一 急状ト云ハ今世ノアヤマリ證文ナリ今急
状ヲ乞ト云詞モ残レリ禁秘抄ニ急状ノ事
見ユ

一 幼キ童名ウ十井コ童女ヲウ十井ヲトメト
云事ウ十井トハ髪ノイニ夕長カラヌコ云

ナリ

一 じレドウハ実頭ナルベシ鎬矢墓目四目十

ドウハ皆中ヲ彫リ抜テ空虚ニスル也じレ

ドウハ中ヲ彫リ抜カズ実ナシテ有ル故実

頭ト云也じツトウ其ハ云ヒニ夕キ故じレ

ト云ト云也

一 尸股ハ墓股也カハル股ヲ中畧スレハカ

マ夕也リトト音相通故カリマ夕ト云

一 案シトキ是ハ餅禾ヲ蒸熟シテワツカニ春テ雞

子ノ形ノ長キカ如ク造ル也

一 マカリ南領遺稿ニ云六帖ニヒノオモノ

一 一カカリヲツグル名オヤメノアフギノ音モ
エヤハ忘ル、此歌ハ天子陪膳ノ女官唯今
御膳モ濟タルニ、手長ノ人々参リテ御膳
ヲスベラカサレヨト知ラス為ニ扇ヲニツ
三ツ折テナラス也ヒノオモノトハ毎日ノ
御膳ナリニカリトハスヘラカセヨトノ義
也貞丈云退ノ字也其陪膳ノ女官ニ心ヲカ
ケタル殿上人ノ讀シ歌也其扇ノ音モ忘レ
ヌト云トノ詞ツキヨモシロシサテ御膳
ノサテノモノヒナ檜曲ト云物ニテソレハ入
テシリゾクタトハ砂糖ナトヲ入ル曲物

ノ大キナル物也是ヲニカリト云御膳ノ具
ヲ入テニカル物ナレバ也毎日ノ御膳ニ新
シキヲ用ル故殿上ノ間ノ次ナル臺盤所ニ
多ク有ル物也ツレク物ニニカリニテ水ヲ
ノミタルト云ニ神代ノ豊玉姫ノ段ニ引テ
ツルヘノ事ナリト抄物ニアルハアヤナリ
也公卿ノ人禁中ニテツルヘヨリ水ヲノム
ハカラズ
一 祢唯同左耳底記ニ烏丸光廣間細川玄旨答祢
唯ト書テイセウトヨム習也
一 御曹司御方故実拾要抄ニ云是堂上諸家

一 中人息房住ノ間ヲ云近代御方ト云貞犬按
室町ノ比御嫡子ノイニ夕家ヲ継夕ニハス
一 間ノ御方御所ト云ニモ是也又按曹司ハ右
司ノ役所ヲ一ニキリクニニキツテ置ヲ云
局ト云モ是也子息ヲ其役所ノカキタル所
ニ假ニ任居サセ置意ニテ御曹司下云也
一 歡樂 同書ニ云是^於堂上諸家用詞也或元服
并賀婚姻等都テ祝義有之時所勞有ル人ノ
方ヨリ其祝義アリ人ノ許ニ消息或使者等
ニ申送ル詞也所勞ヲ云ハ不歡樂ノ子細有
リテ叅ノ賀セズトド、申也貞犬按歡樂ト

ハ痛苦ト云下ノ替詞也梨子ヲアリノミト
云カフル類也
一 公家童形 同書ニ云元服以前童ノ髮ハ常
ニ切ル^ルトナシ長ケニ余ルト雖モ延置也是
ヲ常ニ結フ時ハ髮ノ光ヲ取揃^ハ項ノ上程
ニ上テ天結之其末ヲ二ツニ分テ額ノ上程
ニ丸夕兩眼ニカテ輪ニ結之也
一 不飾門松 同書ニ禁中並堂上諸家中モ正
月門ニ松ヲ不飾也於諸家中ハ注連ヲ引也
禁中ニハ引カス注連ト外繩ニ紙ヲ切り垂
ル物也

一 正月飾三方 同書ニ堂上諸家中正月三方
飾ニハ尉斗鮑昆布ニ種ヲ切テ硯蓋ト云
物ニ盛リ白著一膳ヲ添テ三方ニ載之也年
始對客ノ時件ノ三方ヲ主人ノ前ニ備ル時
主人著ヲ以テクシコニブヲハサシテ客ニ
進終テ引之也硯蓋トハ硯管ノ拵カブセノ
如キ蓋ナル物也梨子地高蒔繪金沃懸等ア
ル物也

一 河豚魚ノ毒ニ中リタルニハ砂糖ヲ湯ニカ
キ立テ吞ベシ妙也又青砥ノ粉ヲ水ニテ吞
モヨシ砂糖ハカウヲノ醉モ解クモノ也

一 海鰐^{イカ}ノ墨ハ蛇ノ毒ヲ解ス妙也イカノス

ミヲトリ乾シ貯ヘ置ヘシ

一 五六鎧ノ名明解ナシ按ニ鉄ニテ鎧ノ骨ヲ
作り其骨ハ木ヲ狭ニ入レテ作りタル物ナ
レハ鉄ト木ト千カウヲ合スル意ニテ合カ
ノアブミナルヘシ夫ヲ五六ト書故知レス
事ニナリシ也千カラト云字漢音ニテリヨ
ク吳音ニテロクトヨム也
一 參河後風^五記ハ二階堂松喬ト云モノ平岩
ノ名ヲカリテ作りタル也
一 甲陽軍鑑ハ小幡勘兵衛カ高坂彈正ノ名ヲ

一 カリテ作ル也
 一 ヨメノ事ヲ御新造ト称スルハ其ヨメノ居
 所ヲ新ニ建タル故ニ云ナリ
 一 才ホケナキ冥加ナキサカナキ天骨ナキ貞
 犬按此等ノ詞ニナキト云ハ無ノ字ニ非ス
 也ノ字也トキ五音相通ナリ也ト云フナ
 キト云へル也無ノ字ト云テハ語意大ニ違
 フ也此事知ル人スナクナシ冥加ナリサカナ
 ルナト云事ナリ
 張鞞 練鞞ノ事張鞞ト云ハ木ニテ折タル
 鞞橋ヲ滑草ニテ包ミタルヲ云今世コノ張

鞞ノナリヲ練鞞ト云フハ誤也練鞞ハ前後ノ
 輪居木共ニ木ヲ用スメイタノ草ヲ畿牧モ
 カサ子ト子ツケテ作り其上ハ滑草ヲキセ
 テ包タル也練鞞ト云フ鞞モ同ニ作りヤウ
 也練鞞ト云フハ草ヲ重タルニ練物ヲ付テ
 草ト草トヲ合セ固ルナルヘシ練物ハ漆ニ
 小麦粉膠ナトヲ子リ合セ用ル歟
 一 平家ノ臣セノ才ノ太郎ヲ東鑑盛衰記等ニ
 妹尾ト書タルハ誤也妹背ト云フヲ取ナカ
 ハタルナルヘシイモセハ元背^{イモセ}兄也背ノ字
 シ假リテ妹背トモ書也万葉ニ妹^{イモトセ}与背ノ山

トヨノリ類聚国史ニ備中国背尾トアリルヲ
見レハ背尾太帛ナルハシ
一 徒然草ノヲ新井白蛾著ノ牛馬問ニツレク
艸ヲ兼好自ラ編メルヤウニ思フ人多ク然
ラスコレハ兼好ノワラハ余松丸後ニ今川
了俊ニ仕フ了俊命松ニ兼好カ哥十トノコ
ル物有リヤト夢ク草庵ノ壁ニハラレテハ
ヘルコ、ニモ候ハカカタミニ重宝イタス
トアレハ尋サセヨトテ吉田ノ感心院ハ命
松丸ヲツカハシ伊賀ノ草庵ハ伊与太郎
光貞トテ歌ノ心モアリシヲツカハシ尋シ

一 伊賀ノ草庵ニテヤウク五十枚ハカリ集
メス今ノツレク艸ハ吉田ニテ多クハ壁ニ
ハラレシ又徑卷十トヲウツセシモノウラ十
トニ書捨アリシヲトリテ来レル夫ヲ了俊
命松十ト取揃ハ又命松カ許ニ有リシヲ集
メ歌一冊艸紙二冊トセリコノ時題号十キ
故發端ノ文字ヲ取テ徒然艸ト題セルハ今
川了俊ニテゾアラシ
一 厄年十九廿五世三十四十二ヲ云十九ハ重苦
ト云心也廿五ハ五ニ廿五ト云ニヨリテ五
ニヲ後ニ二重後ト取テ死後ノ夏トメ

忌ム世ニハ三々ト重ル故散ニト取ナシ忌
 ム四十二ハ四ニトツバクユヘ死ト取ナシ
 忌也ラキモ無量也
 一 工匠人ヲ職ノ字ヲ用ルハ非也諸工人ト書
 バシ續前問答ニアリ
 一 太平記六六波羅政ノ条ニ城ノ構ヲ見渡セ
 ハ、一五六八九寸ノ琵琶ノ甲^{カウア}安ノ郡ナレ
 トヲ鐫貫テシタ、カニ屏ヲ塗ト云五六八
 九寸ハ角柱^{カトハシラ}太サヲ云琵琶ノ甲ニハ必タ
 推ト云木ヲ用ユ甚木ノ性強クシテ朽サル
 木故屏ニ用シナルベシ或云コノ木ノ木理

ハツ子ノ推ノ如クノ色ケヤキノ如ク赤ク
 シテケヤキヨリモ黒ミアリ土藏ノ柱ノ土
 臺ニメ何年モ朽サルモノ也ト貞犬按スタ
 推ハ必琵琶ノ甲ヲ作ル木ナレヨリテ昔ノ俗
 ニスダ推ノ木ノ一ヲ琵琶ノ中ト云ヒ習ヒ
 タルナルヘシ又安ノ郡ハ長門国阿武郡也
 杣板ヲ哥ニヨメリ藻塩集ノ歌ニ
 長門ナル阿武ノ郡ノ杣板ハモロヨシ人モ
 スサメサリケリ長門ヨリ出ル材木ヲ阿武
 ノ郡ト云ヒ習ハシタルナルベシ安ノ字ヲ
 用ルハ誤也阿武ヲ用ユベシ

一 御監 祿 東海ノ和学辨ニ馬寮御監左右
 アリ今ハ將軍家ノ兼官トナルゴカレトヨ
 一 古代 梓弓 檀弓 槻弓 柘^{ツミ}ノ弓ヲ用ユ是等ハ皆
 丸木弓也丸木弓ハ膠ヲ用サル故葭秋ノ湿
 深キ時節ニモ弓狂フトナシ又雨露ニ逢ニ
 モ狂フトナシ故ニ軍陳ニ用之也木弓ハ朝
 鮮^{ソコ}ト^{ソコ}ニモ今ニ角弓ト並用ユ蝦夷ニモ木
 弓ヲ用ユ今世ノ人木弓ハ引折ヘキカトア
 ヤブミ思ヘリ射手試ルニ折ルノ事ナシ木
 理ノ用方也

一 丸木ヲ削ニ木理ヲ板目ニトシハ引折ル
 リノニ取ヘシ木ヲ撰ニ木理ノ直ナルヲ用
 ベシ木理ノ子ジレタルヲ用ベカラス長サ
 ハ入^クノ^クノ寸ニテ七尺五寸ニスベシ曲
 尺竹尺ヲ用ズ
 一 丸木弓ハ檀^ツ上^スト^スニユミノ木トハ真弓
 ノ木ト云^フ也ニコトノ弓ノ木ト云^フ也槻
 ハケヤキニ似タリ梓^スア^ツサノ木也キサ
 キトモ云^フシホクトモ云^フ柘^{ツミ}ハツミノ木也
 山^カグハトモ云^フ何レモ古代ノ弓ニ用ル木也
 又今世ノ弓ノヒゴニ用ル木ハ山ハセ也山

一 天生ジタルハセノホ也古代ハハシ十云天
 ノハジ弓是也丸木弓也
 一 ユリハカ実記小栗実記三楠実録ナト実事
 ハサハカリニテ偽作多シ外題ニ実シ字ヲ
 加ヘタルハ人ニ実也ト思セン為ナルガ
 ナレト実ハ字ヲ加ヘタルニテ押テ其虚顯
 ハル也三代実録文德実録ナトハ古史ニ
 テ真ノ実録也サレドモ実録ト名付ラレシ
 ハ快ラザルカ実ハ虚ニ對スル詞也虚録モ
 ナキニ実録ト号シタルヲハイカナレヲ
 ヤ三代記文德紀三代史文德史ナトナラ

ハ可ナラレカ

一 中右記ハ中御門右大臣宗忠ノ記也
 一 公卿着坐ノ躰束帯シテハ常ノ如クニサ頭
 シ前ニシ足先ノ尻ニシキテ坐スルヲハ十
 シ表袴ヲ着テハ天神ノ像ノ如クニサ頭
 シ服ノ方ヘヒラキ足先ヲ前ヘシテ安坐ス
 ル也右壺井氏ノ説名目抄聞書ニアリ
 一 海人藻苅云單物トハ裏ナキ狩衣云又狩
 襖トハ狩衣ノ下也此言ニ付物ノ菊トナト
 ナルヲ以テ考ルニ作り花其外作り物ヲ装
 束ニ付ルハ即是ヲトナテ菊トナニ用ル

也只カサリ計ニハ非スキクト千ハ縫目ヲ
ホコロバカサジカ為也
一嘉定 林道春ノ作ノ庵丁書録ニ曰六月十
六日ニ嘉定アリ世俗ニ申傳ルハ室町家大
樹ノ時ニ六月納涼ノ搦ノ為ニ揚弓ヲ射テ
カケモノトシニケタル者嘉定錢十六文ヲ
出シ食物ヲ買テ勝タル者ヲモテ十スナリ
嘉定ハ宋寧宗年号ニテ十七年アリ其年毎
イタル錢ニ元年ヨリ十六年迄ノシルシア
ルヲ十六錢アツメテ今日一人コトノモテ
十ニ物ノ代ニ定ムル也ト室町家ノ年中行

夏ノ書トモニハ見ヘズ
一 シラニ云ハ檀ノ白木ニテ作りタルヲ
云フ
一 前中春王トハ村上帝ノ弟源兼明也中勢卿
ニ補ス後中春王トハ村上帝ノ子具平親王
也コレモ中勢卿ニ任ス
一 蘭界ケヒキノ丁
一 僧ニ施ス物ヲ布施ト云フハ須達長者祇陸
園ニ黄金ヲ布キ並ニ其金ヲ以テ其園ヲ買
ヒ取テ建寺テ釈迦如來ニ奉リシ故事ヨリ
出ス

一 寧ノ字ノ訓古ヨリ 儒書ニムシロトヨミ来
 レリ貞丈按ニムシロトヨム丁 儒書ニノシ
 用テ他ニ通セサル詞也 説文曰 邪詞ナリト
 アリ然ラハ子カハクハト 讀タケレトサヨ
 之テハ直ニ願ノ字ニテ願ノ詞ト云ニ合ス
 願ノ詞ニヨムハキナラバカシトヨムベシ
 カシト云ハ願ノ詞也コノ讀ヤウ先儒イテ
 夕弁セサル所也 大學曰 与其有聚斂之臣寧
 有盜臣 論語 与其不孫也 寧固又礼 与其奢也
 寧儉 卷子其易也 寧戚 古歌ニ
 寧儉 卷子其易也 寧戚 古歌ニ

コレハ願ノ詞也
 一 繼目ニ印タルニ公式今日凡公文皆印 夏状
 物数及年月自並署 終處鈴傳符 尅数
 一 職事官散官武官文官京官外官ノ事ニ公式
 一 今日内外諸司有執掌者為職 夏官無執掌者
 為散官 五衛府及諸帶仗者為武 太宰府三園
 園及内舍人不在武限自余皆為外官
 一 朝政日喚姓 名ノ法ニ公式今日三位以上先
 名後姓 謂假令喚奏磨宿称 四位以下 謂五位以
 以外三位以上宿称姓 謂直称宿 六位以下去姓
 称名 謂直言奏磨不称宿称也 即授任之
 日及外並皆通称也

一 位以上称大夫四位称姓五位先名後姓其寮
 以上謂辨官以下四位称大夫五位称姓六位以下称姓
 名司及中国以下五位称大夫謂一位以下通用此称
 一 安藤宇平丹波国桑田郡牟牟山下尾口村ノ
 産也為章ト名云牟山ト号ス水戸西山云召
 元彰考館ノ修選ノ日ヲ頼玉トシ人オ也
 一 用人ノ日東鑑ト是子息即後者尤可為御要
 人之故今武家ニ用ル用人ト云役アルハ
 要人ナルトキ欽家老ニ引鏡テ肝要ノ人ト
 云トナルベシ凡主君ニ仕ル人貴賤ノ品ヲ
 ソアレ主用トキモノハナシサレハ用人ト

一 云役ニ限ルヘカラス要人ト書ハ其茂叶ヘ
 シ太平記三十新田義興自害ノ条ニ傍輩共
 皆コレニ過タル御要人アルベカラスト是
 肝要ノ人ト云心ニテ御要人ト書タルカ
 一 江家次第十四大嘗會御禊条ニ節下大臣ト
 云トアリ一条禪閣ノ三ヶ重克抄云節下ノ
 大臣ト云ハ節下ハ旗ノ名也世俗ニハ大力
 シラト名ク其旗ノ下ニ供奉スルニヨリテ
 節下ノ大臣トハ云也
 一 貞永式目ノ起情文ニ殊ニ伊豆箱根両所權
 現三島大明神八幡大菩薩天満大自在天神

トアリコレハ相摸国ニテ言シ故相摸ノ神
 名又近隣ノ伊豆ノ神名ヲ誓ヒ掛シ也ハ幡
 ハ鶴ヶ岡天神ハ荏柄也他国ノ人起請文ニ
 伊豆箱根ヲハ書ニ及ニ
 一貞永式目又盛衰記三十七則綱盛俊ヲ折糸
 ニ和與ト云丁アリ是ハ相共ニ和談スル丁
 ヲ云ヘリ
 一盛衰記十九佐々木馬ヲ取り下向ノ糸ニ喜
 之ハト名乗ル下賤ノ者アリハ官名也官
 名ヲ犯ス丁モクシキ丁也
 一短冊東山殿ヨリ始ルト云ハ非也雜々拾遺

一云宇治左大臣頼長云ノ日記ニ鳥羽法皇ヨ
 リ官女ノ方ハ短冊ヲカキ下サル、由アリ
 一酒ヲ三遲ト云丁朗詠集ニ先三遲分吹其花
 ト云惠法印ノ説ニ一ニハ人ノ手ヨリ酒罌
 ヲウクルニサウナク請取ラザル其間遲ニ
 ニニハ請取テ酒ヲ受テモトラザル間遲ニ
 故ニ酒ヲ三遲ト云フ時ノ間オソニニテ人ノ手ヨリ酒ヲ
 フレマウニ定テ三遲ノ義式アリ先筵ヲシ
 キ次ニ語ヲニシハ次ニ肴ヲスバムコレヲ
 三遲ト云ト
 一俗ニサモシイト云詞アリ編ノ字十ニ

玉篇ニ狭也衣小也字彙ニ褊小陋又詩ノ魏
風維是褊心ヨレウノ字注ヲカシカフレ
ハ褊ト云ハ千イサクセハクセハニキト云
意ノ字也然ラハサモニイト云ハ心セバク
千イサシトテ賤ムル詞也サモシイハサミ
ニイ也モトミ通音ナル故サモニイ同サモ
ニイト云也入ヲサミスルト云モ人ノ器量
ヲセバク千イサシトテ賤ムル也サミニイ
トサモニイト差別ヲ知ルベシサモニイ在
寂ノ字也

一盛衰記世三頼朝征夷將軍宣下ノ条ニ三浦

みトハ名乗ラスニテ三浦荒次郎義澄ト名
乗ル貞犬按国司官名ニ相模ノ武藏ノト
、云ハアリ三浦ノ富樫ノト、郷名ノト
ハ十キト也三浦義澄ハ三浦ヲ領スル故私
ニ三浦ノト名ノルサレハ私ノ号ナル故勅
使ニ向テ至三浦ノト名ノラズニテ三浦荒
次郎ト名乗リシナルベシカ様ノトヨリ官
名モ乱レ今ハアラス名トナリ何処何丞十
ト、云ノトニナレト、
一吾朝ノ警蹕ハ近衛司天子出行ノ時御先ヲ
掛フニアウクト高声ニヨハハルト云是

ノサキヲオフトモサキゴトモ方也天子
ノ外ハセヌ事ナレトモ公卿公達ハ私ニテ
サキヲオハス也私莫ナル故朝廷ニハ隱ノ
行フ也後世武家先供カホウクナ云テ先ヲ
ハラウモカノ余風ナリ
一吏部王ハ重明親王ヲ稱スル也吏部ハ民部
卿ノ唐名也
一茶ニ極ツ、リ別美半一十ト云フアリソハ
リトハワロヘルノ美ニテエリ出ヌ美也極
トハ極上トノ夏也別美下ハ珠光ハ松花ノ
香香ニ茶ヲツメテ、^テ此ニガ真壺アリ持過

テ茶炙カ故ニ隱密ニ宇治ハ云遺シ蒸ヲ少
シサセシ也コレヨリ珠光ノ別後ニ被仰下
トテ薄茶ノ上ヲ別後ト云也半一トハ一介
ハ茶目二百文目也ソレヲ十ニ割リーツヲ
一袋ト云然レハ茶目ハ廿文目也其一袋ヲ
二ツニ分ツカ故ニ半一ト云袋ヲ半ニスル
也又初昔後昔ト云ハ昔ノ字ハ廿一日ト書
也三月廿一日ニツミタルヲ初昔ト云廿一
日後ニツミタルヲ後昔ト云
一 道服ハ公家ニ用ヒラレ、物ニテ僧衣ニ似
タル物也乗馬十トノ時ホヨリノ立ヲ衣裳

シ汚スヲ防クハ胴服也夕ケ短ク胴ハカサ
 覆フ物ユヘ胴服ト云也
 一伽羅ハ沈水香ノ梵語也楞嚴經經ニ埋火香
 聞トアリコレ今ソキヤラキハ用ル法ノ
 コトシ
 一大臣ヲオトトヨム殿ハ字ノ擬訓ナリ
 夜御殿ヲヨルノオトトヨムト云也大臣タル人
 シ殿ト云也
 一手紙ト云フ手簡ハシユカントヨムシユ
 カンヲテカントヨミテ又轉シテテカミト
 云ツイニ手紙ト書タル也

一女官ノ中ニヒスニシト云アリ樋洗ト書ク
 又畧シテヒストモ云此ハ糞器ヲ洗ヒ清ル
 役ヲ勤ル女也大使ヲヒリ入ル物ヲハコ
 ト云也此ハコヲ洗也ヒスニシカハコヲ持
 テ行クヲ平仲ト云人ノウハヒトリミト小
 世緬ニ見ユ古代ハ廁ノ下ニ瓶又ハ樽ナド
 ヲ入テ置フハナク箱ニ大使ヲヒリ入テ度
 三ニヒスニシテ洗セシ也
 一書状ヲ紙ニ包ミ糊ニテ封スルコト古代コレ
 ナシ或書札ノ書ニ是ハ慶長文祿ノ比ヨリ
 始レリ此時乱也故糊封ヲ用ニ石田三成專

用之包三様給醫師以葉包以学ブ也トサモ
アル六

一圖書集成一万卷康熙帝自撰也宝曆十四
年本朝へ来ル官庫ニヲサメラル

一番長己上府生將曹ヲ本府ノ隨身ト云近衛
舎人コレヲ隨身ト云本府ヲ隨身ハ騎馬近
衛舎人ノ隨身ハ歩ナリ

一サカイキハ逆氣也サカヤキノ轉語也古代
ハ人ハサカイキナシタニク逆上ノ氣強キ
人ハサカイキスルヲ有リ古代ノ人常ニ工
ボニヲカブル故逆上強キ人ハツリニ也又

合戦アル時胃ヲカラ逆上ツヨキ人ハ夕

マクソ此ト有天下知人ユ出クワルヲハ秀

吉ノ比ヨリノ事秋古画ノ結城合戦ノ画ニ

結城七郎カ曹ヲ又キ鎧又キ切腹スル躰

ヲ画クニサカハキノ躰ヲ画タリ額ノ前ニ

毛ヲノコシテ刺ス也今世人中タリノ如



一打肉ニテ痛ムニハ牛糞ヲ日ニ乾メ布ニ包

ニ熱湯ニヒタシテ其包ニ灸ル牛糞ニテ痛

則ヲ蒸ヘシ妙也乾夕ル牛糞ハ甚香ハシ
物也糞クサクナシ上天竺ヨテ牛糞ヲ名
キヒノニメ仏ニ供スルヨシ法苑珠林ニ見
ユ

一姓朝臣名朝臣ノ下清原三位宣賢卿云三
位以上ノ参議ハ召名ノ時参リ後藤原ノ朝
臣トハカリ呼也氏ノ下尸ヲ呼テ呼フ大中
納言モ同吏也又畧シテ召名ニ非ス書付ル時二位
三位ノ参議ハ大中納言ト同様ニ某人宰相
ト書ク類也位署ノ時ハ大臣以下未ノ諸官
ニテ官位ヲコトクカキ人セテ未ス氏尺

ノ下ニ名ヲ書姓ノ朝臣某ノ朝臣トト云
下ハナシ壺井氏云姓朝臣名朝臣ト云下ハ
公吏ノ時大臣タル人参議ヲ召ス時召ニ名
ノ法ニコノ差別ナリ参議ノ召名ニカキリ
タルト也

一宮中持扇策杖續日本紀廿四天平宝字六
年八月御史大夫文屋真人淨三以年老力衰
優詔特聽宮中持扇策杖上古ハ宮中ニテ扇
ヲモツ下制禁事ナシコノ勅アリ後代ニ扇
ヲ朝服ノ具トメモツ下ニナレリ武家ニテ
貴人ノ前ニテ扇持下ヲ憚ルハ上古ノ礼ニ

呼入り婦人又痛脚録ニ引リウ午ハノリ十

一襖子衣服合延喜式等ヲ考ルニ衛府ノ官人

於着スル關腋袷袍也裁縫其袷ヲカミ

ニシテ狩衣ニ似タリサレハ狩衣ニ本名ヲ

一公狩襖云也鷹狩ニ著ルベキ襖ト云テ也

襖ニハ袖括ナシ狩襖ニハ袖括アリ鷹ヲツ

カフニハ袖括ナシテテ手ヲツカフニ

タヨリヨカラシ為也素襖ハ其袷タリクヒ

ニノ裁縫襖ト異ナレハ襖ノ名ヲ得タリ彼

ハ綾ニテ造ル是ハ布ニテ造ル故質素ハ

義ヲ以テ素トハ云ナルハシ

一麤^{コシカク}靴ゾウリ和名クハノト云物也昔比叡

山ニ安然僧正貧窮ニシテ書ヲ求ルカナシ

ヨツテ法器ノ金剛ヲ手ニ持テ草履ヲツク

リシヨリコンゴウソウリト世ニ云ナラワ

スト物類稱呼ニ有リ

一ヌンスワラビ今世ハ小児ノミハク物ノ様

ニ聞ユレハ本ハ大人ノハクモノ也古ハハ

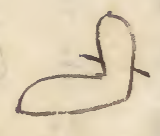
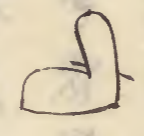
武者ハキニ故武者ハラビトモ云盛衰記ニ

コンスハキテト云ヲ見ユ

一障泥和名抄ニ見ユ泥ヲ障ルトアルニヨ

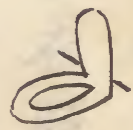
ツテ考ルニコノ物元雨雪ノ日泥ヲ馬足ニ
 蹴立テ衣服ヲ汚スヲ障ニ爲ノノ具也然ル
 一 行ヲレヲ常ニ用テカサリトスル下ニナレ
 リ晴天ノ日ニハ無用ノ具也武家ニハ軍陣
 又騎射ニハ必障泥ヲサ、サルナリコトニ
 一 川渡リニハ障泥ニ水シトムユヘ忌ム也大
 將行軍道路ノ間ハ壯觀ノ爲メ虎豹十ドノ
 障泥ヲ用ル也
 一 冠ニ厚額薄額半額透額ノ品アリ透額ハ今
 一 モ用ラレ冠ノ額ニ半月ノ形ヲ彫リ透メ其
 一 穴ヲ羅ニテ張フサキテ漆ニテスリタル也

十六歳ノ春迄是ヲ用ラレ



如此額高キ古画ニ見ヘタレ凡画ナル故畿寸
 ホト高キト云フハカリカタシ厚額ト云フハ
 額ノ正面ヨリ見テ高クミユルヲ厚トシ低ク
 見ユルヲ薄トシ其中ナルヲ半トスルナルニ
 如此額低キハ薄ヒタヒナルニ是今世用
 ラル冠ノ形也今世ハ皆ウスヒタヒナルニ

上ノ圖ニヨツテ思フニ少シ高クシタルハ
 平ヒタヒナルニ



スキヒタイハ如此額ノ上ヲ半月形ニホリ
スカシテ羅ヲ張タルヲ云也コノ冠ハ頭ト冠
トノ間近キユハ暑天ニアシ、仍テ半額ヲ
用ユ半ヒタイハヒタイト冠ノ間遠キ故也

一 和哥ト云フ 古今和歌集十ト、之和ノ字
ハ無用也和漢ト相對スルナレバモシ前ニ
詩ヲ書タル書ナレハ詩ハカラウタ故其次
我國ノ哥ヲ書列子ハ和哥ト云ヘシワレタ
ニモ日本人ノ詞ニハ和哥トハ云ヘカラス
國哥トコソ云ベケレ此莫和哥ノミニカキ
ラズ異朝相對スルトモナキニ本朝吾朝ナ
ト、稱スルモ無用ノ詞也

一 和長卿日記曰天子追号後之字用音讀大臣
稱号之時後字用訓讀是通法之故實也後深
草院一号者用訓讀其様御不孝之讀不聞好
之義也又大臣稱号後京極殿一名人皆後字
用音是無殊莫只以言好之義也

一 ミツガヒトツク安藤年山曰源氏葵ノ卷河
海抄ニ井ノコノ餅ハ色ニナル三日夜ノ餅ハ
一色ナレハ教ニアラスト云也契仲云所
セキサニハアラテト云ニテ知ベシ教ニ
ハタバ教ノ夢キ也色ニヲ云ニハ非ス井ノ
コノ餅ヲカリシ其三分カ一ハカリセヨト

ノヲナルベシ紫ノ上ノハ嫁娶ノ本式ニ
 モアラテ盗ニ取り玉ヘルヲナレハ只祝ノ
 シルシ斗リニテ穂使ナラシカ為也三ツカ
 一ツハ今世三ツノ物一ツト云ニ同シ
 一菊花同人云萬葉ニ一首モナシ桓武天皇ノ
 御歌類聚国史七十五卷ニノス延暦十六年
 十月曲宴酒酣皇帝歌云コノコロノシグレ
 ノアノニキクノハナナリモシヌベキアタ
 ラソノカヲ貞犬按キクノハナトヨミ玉ヘ
 ルキクハ字音也字音ニテヨブ丁外国ヨリ
 渡シ故ナルハシニカルニカハラヨモギ又

アキノニベハナナド、訓テ付シハ後人ノ
 シハサ也
 一天皇謚号親長卿日記曰謚字神武以来至
 文武四十二代者是淡海公所制事已幽合也
 其後儀或依平日之德行或以後院御所
 一山鹿高祐号素行子貞亨二年没葬于牛込榎
 町雲居山宗参寺号月海院
 一素襖 平貞犬云常ノ素襖ノ如シ袖一幅
 半袴 半袴ニテ別ノ事ナシ
 一六具 ヲケ ヲチ ヲシ ヲリ 小
 一あふき 六具の説近世ニ多くシ右の説古ク

一様ノ字ノ事 後花園院永享四年九月足利
 將軍茂教公謙倉管領持氏と改人爲ふ事_ヲせて
 富士_ノ史_ニ云々_ニ後河_ノ下_ノ向_セル_ル此_ノ時_ノ礼_ヲ并
 雅世_ノ隨_テ行_キ馬_ノ士_ノ紀_ヲ行_キと_レ云_レル_ル其_ノ端_ノノ_ノ文_ノ不
 可_レ振_ル富士_ノ法_ノ覺_ト是_レ古_ノ記_ノ中_ノノ_ノ人_ト云_レん_ル振
 一八_ノ女_ノノ_ノ莫_ニ相_ノ摸_ニ三_ノ浦_ノ女_ノ下_ノ總_ニ千_ノ葉_ノ女_ノ
 上_ノ總_ニ上_ノ總_ノ女_ノ是_レヲ_レ坂_ノ東_ノ三_ノ女_ト出_ノ羽_ニ秋_ノ田_ノ城_ノ女_ノ
 一伊_ノ豆_ニ狩_ノ野_ノ女_ノ加_ノ賀_ニ富_ノ樫_ノ女_ノ周_ノ防_ニ大_ノ
 内_ノ外_ニ右_ノモ_レハ_ハ北_ノ面_ノ年_ハ龍_ノ口_等召_レ仕_ル
 一布_ノ引_日禁_ノ秘_ノ御_抄アリ_コノ_下中_ノ右_ノ記_ニ

一詳也布引ハ今ノ相撲首引唐土ノ拔河ノ戲
 也天子殿前ハカ者ヲ召シ布ヲ引兩ノカ者
 布ヲ引シノ勝負ヲ決セシムル也
 一轡古訓クツクツラ今製タツ十古今同義
 也轡銜二字共クツクハナリ轡ノ字ハ手
 綱ノ字也此字ハ六書ノ中ニ象形ト云字
 ノ作り様也中ニ車ノ字ヲ入タルハ上古車
 六足ノ馬ヲカケテ別セタルニ車ノ書
 也其車ヲヒク馬ノ口ニ銜_{カケ}ヲハマセテ銜_ニ
 綱ヲ付テ車中ニ御者アリテ其綱ヲ執テ馬
 シ自由ニスル也下ニ口ノ字ヲ付タルハ馬

ノ口也左右ニ糸ヲ書ハ手綱也字ヲ造ル時
 二左右ノ糸ハカリ書テハ何トモ知レス故
 馬ノ手綱ト知レル為ニ車ノ字口ノ字ヲ加
 へタレモノ也此一字ノ中ニテ重キモノハ
 左右ノ糸也車ト口トハアヒニライニ加へ
 タル物也サレハ此轡ノ字ハ馬ノ口ワキニ
 ツク綱ノ名ニ用ル字也ヨツテクツハツラ
 トヨム是ハ口ハキツト云フ也今ハクツ
 十トヨムヘキ也勒クツバミ也コレハクチ
 ハメノ轉語也今クツハト云物也
 一武藏アブミサスカサスカ子ノ畧語也カ草

ノ宛ハサスカ子也
 の宛ハサスカ子也
 保元物語ハカサスカ子ノ俗名也
 あふこのさすづがやカ草カサスカ子ノ俗名也
 の奇ハカサスカ子ノ俗名也

一 續古事談ニ或人々諸國の地記ニ名心得すいふ
 身ノヤシキト年本ありいハ後漢書の中ニ
 ありヤシキ者出素トヤシキトヤシキト年
 本小島と集ル時兵糧庫の爲メ國王郡々ヤシキ
 集ルと地記殘トヤシキ今ノ地記の爲メ叶ス
 此文と見ル人々ヤシキトヤシキトヤシキト

一多知ハ刀劍ノ惣称ニシテ物ヲ断切ルノ意也
 也劍ハ都留ツルキト訓シカヲ加多那ト訓ス古
 事紀ニ都牟利ノ太刀タカチ凡亦都流岐能多知凡
 有ハ尖リタルカト云フニテ即諸及ノ太刀
 ヲ云也今モ畿内ノ人ハ尖リタル刀ヲツレ
 一ガリシタト云フ東国ノ俗ハ千ヨニカツタ
 凡云フ其言ノ本ハ一也都牟利ノ年ヲ留ニ
 通ハシ我里ノ二言ヲカヘセハ藝ノ一言ト
 ナル也加多那ハ片及無ノ義ニノ諸及ノ太
 刀ニ對シタル訓也和名抄ニ四声字苑云似
 刀而モロ及曰劔似劔片及曰刀

一皇朝ノ画法ヲ傳ヘタルハ土佐家也唐土ノ
 画法ヲ學ヒタルハ狩家也土佐家ハ和画也
 狩野家ハ唐画也今ノ唐画書ルモノノ準据
 トスル所ハ明画ノ風ニシテ唐山ノ古ヲ學
 フ者ハ絶テナシト去ナカラ探幽出テヨリ
 狩野家ノ風一変ス可謂英雄人ヲ欺クノミ
 一青藤山人路史云唐時高麗貢松烟墨和麋鹿
 膠造名麋隄下リ
 一書法正傳ニ韓韓方明カ執筆ノ五法ヲ載ス第
 一執官二簇官三撮管四握管五搦管空海書
 ヲ韓方明ニ學ヘリト云傳フレバコノ執筆

ノ五法ニ通達シタル故弘法ノ五筆和尚ト
 云ナルべシ世ニ云知ハ恐ハ誤ナラシ
 一凡判 戸令云凡棄妻須有七出之狀中畧皆
 夫子手書弃之若不解書画指为レ記東涯本願
 書云古記云謂夫不解写書賃地人合作牒状
 年月日下夫姓名注并食指ヲ点署コレヲ凡
 判ノ初ナラシ唐土ニテハ手摸印トテ休書サリ
 ニ五指ノ頭ヲ印スル事水許傳元曲ナトニ
 アリ
 一月待日待 待ハ祭也ツリノ及ナトナルニ
 一テ明也子待ハ子祭已待ハ已祭也

一由命田今ニ畧ナ字ヲ書ク所ハ由命田今ト
 一テ頭ヲ由ニ作ル時ハ脚ヲ分ニ作リ頭ヲ田
 一ニ作ルトキハ脚ヲ分ニ作ル法也按ニ壺碑
 一ニ畧ニ作リ宇津宮ノ鐵塔婆ニ畧ニ作レリ
 一左甚五帝ノ左ハ飛彈ノ誤ナルベシ或木匠
 一不フ五
 一齒黒 兩朝平懷懷録載官家子姪皆以ハ鏤鉄水
 浸ツ子未シ染シ牙与シ民家以シ黑白シ分シ貴賤女子不
 分良賤染シ牙姑嫁此日本風土記ニ海人藻芥云鳥
 羽院御代以前ハ男ハ眉ヲヌキ鬚ヲハサシ
 カ子ヲ付ル丁一切毎之及未代毎度矯飭之

至也トアレルヲミレ益男ノ鑄鉄水ヲ付ル
ハ古キノハカアラザル也

一祥瑞 カシメ 南京ノ陶器ニ五良大夫吳祥瑞造ト

銘ヲ書クナリ祥瑞ハ日本勢州松坂ノ陶

工也入唐人間彼邦ニテ割シタル物也ト云

明ノ正徳八年帰国ノ時李春亭ナル者送別

ノ詩アリ詩送居士五良大夫帰日本

敬將玉帛觀天顔 回首扶桑杳渺間

舡泊古鄞三仙地 杯傳新酒四明山

梅黃細雨江頭別 帆引清風海上還

明至貴王應有問 八方取貢溢朝班

李春亭

原本ハ勢州丹生ノ神宮寺ニ藏スル也

一驪龍珠 驪龍ノ珠ハ雞谷也馬黒キヲ驪ト

シハ尺ヲ龍トス驪龍ノ二字皆馬ヲ云也

一交割 寺院ノ什物ヲ交割ト云唐土テハ

寺ノ住持カハル時竹ノ割符ヲ合セテ前住

ヨリ後任ニ交与スエハ家ニ久シク持傳

タル物ヲ交割ト云 林春希著ノ睡餘 藻筆ニアリ

一足利学校 淳和帝ノ天長九年八月五日小

野篁勅ヲ奉シ草創アリシ学校也篁ノ子孫

断ヲ後文明年中僧快元儒叙同一ノ学ヲ序

序ヲ中興スソレヨリ以來代々僧侶ノ住持
 トナル慶長年間采地ヲ賜ヒ及活板ノ字子
 十万余ヲ賜フコノ聚珍板ニテ刷印シタル
 書ヲ世ニ足利本ト云寺号モ山号モ十ク只
 学校トノニ称ス
 一 舍利 仏氏ノ舍利ト称スル物皆小珠也按
 儒家ノ葬礼ニ含珠アリ僧徒是ヨリ思ヒツ
 キヒソカニ死者口中ニ珠ヲ含ニシメ茶靡
 ノ後指ヲ以テ舍利トスルナラン
 一 帶幣 説文云帶幣帛也周礼天官大宰注云幣帛
 所謂贈答賓客者トアリ奴佐ト訓ス按ニ叩スカ

頭ツキサガヒ捧ノ畧ニシテ乃聘物ヲ云也布帛ヲ木ノ
 枝ニ拵ツケテ神ニ奉ルヲ云幣ヲ
 ニギテトモ訓スルハ和布ニキタノ義ニシテ布帛ノ
 ナガヤカナルヲ称シタル也又和名抄ニシ
 テグラト訓シタルハ則満座ノ意ニテ幣ヲ
 置盈ツキタサシメテ云是モ又用テ以テ體ニ訓
 シタル也小ナレハ枝ヲ用ヒ大ナレハ根コ
 ナニ拔タル木ヲ用ヒ今祭礼ニ用ユル榊ハ
 其形ヲ移セル也又紙ヲ切垂クルヲ木或ハ
 竹ニ狭ヒミテ神ノ社ニ奉ル物ヲ幣帛ト云ハ
 其モツトモ畧ナルモノ也古ハ神指スル人

幣帛ヲ手ツカラテ作りテ携ヘ行ヌ福富草子
ハ画ニシテ夕リ又旅行スル人ハ切麻キリスサ麻ヲト訓シタ

此公用名トスル也五色或紫ノ麻布ノ長四寸幅八分ニ

切りタルヲ重テ結ヒ白キ紗カ簇子ノ袋ニ

入レ道ヌカテ神ノ廣前ニ捧テ手向ヌル料

トス其袋ヲ麻袋ヌサト云ト部家ニテ用ヒラル

ト袋ノ図式ニ寸法ヲ悉ク記セリ

一官舎少々何の事トシテもあれ秋得心トシテも

其夏の文字は彦トシテとかし也夫を同役の者の秋

日トシテも巻は又右小点と描トシテふトシテ川の点の既トシテ今

小合点ト云トシテなり

一古俗布の挿紙を深めぐトシテるトシテ深と云今志は

マ式ハ麻の子の事トシテありトシテ免中トシテの事トシテありトシテ

何と書トシテく直垂何を言トシテく符衣トシテふトシテ聞トシテハ摺トシテかり衣

ト行トシテくトシテ其挿紙を画トシテ也トシテ悉夫摺トシテハ彼の石の

面トシテ紫藍トシテかトシテめトシテ衣トシテを摺トシテると云職人トシテ歌トシテ合トシテふトシテ既

すトシテ物トシテ又トシテえトシテ摺トシテまトシテぬトシテと作りトシテ費トシテありトシテハ

まトシテくハ摺紙トシテと板トシテふトシテめトシテきトシテ上トシテりトシテ鈴トシテの具トシテきトシテ摺

とトシテあトシテや摺紙トシテハ板トシテの上トシテ小トシテ治トシテとのせトシテかトシテ茄子摺トシテのトシテすトシテ

とトシテ抑トシテあトシテや末代俣トシテ屋糊トシテと云ものトシテ出トシテ素トシテと色トシテく形トシテと

とトシテ深トシテぬハ秋國斗トシテのトシテゆトシテりトシテとトシテあトシテひトシテふトシテ近トシテに人の許トシテて

カトシテ十トシテキトシテ一トシテ反トシテ小形トシテとトシテ藍トシテとトシテ深トシテとトシテ尺トシテの山トシテと

月一掃ぬるれハ糊と形ふく五三と能く又れハ端ラふ
て書りし意一五の掃ぬれ人而く皆ちくく座
ふくハ糊のほつわれぬふく

一 かしほ餅とわし餅とさハ牡丹餅とさゆ也とわしひーささハ
ふく萩とわしとさハささ餅とさゆゆかともささ
の花といふと月一事ありと上達尸の娘の老女とふれ
語き

安齋漫筆

